

第 34 回庭野平和賞贈呈理由

第 34 回庭野平和賞の受賞者:

ムニブ・A・ユナン師

ルーテル世界連盟議長、ヨルダン及び聖地福音ルーテル教会監督

第 34 回庭野平和賞は、聖地エルサレムにおいて、諸宗教間対話の促進に粘り強さと慈しみをもって取り組んでいるパレスチナ人のムニブ・A・ユナン師に贈られる。違いと憎しみを強調するリーダーシップが特徴的な今の世界で、師はその正反対の調和と慈しみのため、一貫して努力してきた。ユナン師は、師の活動の中で、権力より平和を、また一つの宗教支配より諸宗教の調和を重んじてきた。ユナン師は、理想的な宗教指導者が具備すべき資質を備え、それを遺憾なく発揮している。庭野平和賞選考委員会は、ユナン師とその業績に対してこの賞の贈呈をもって深く敬意を表する。

ユナン師は、民族的・宗教的・地理的環境がすべて個人のアイデンティティと密接な関係を持った土地でもある聖地エルサレムで、パレスチナ難民の家族に生まれた。未だに続くイスラエル人とパレスチナ人との紛争は、人々の相違点が類似点よりも重要視される時に起きる、コミュニケーション断絶の顕著な例である。三大宗教（イスラーム・ユダヤ教・キリスト教）のそれぞれのアイデンティティを持つ人々との対立が、それぞれの信者を、暴力しか反応の手段がないと思われるところまで、疎遠にさせてきた。こんな複雑な難題にもかかわらず、ユナン師は、エルサレムで、そしてそれを越えた広がり、ユダヤ教徒・キリスト教徒・ムスリムの対話を促進することに献身してきた。

ユナン師は現在、ルーテル世界連盟の議長である。師は長年にわたる活躍において、ルーテル教会と諸宗教対話組織の要職を数多く務め、その地位を活かして、中東の多くの宗教指導者と幅広いネットワークを構築した。ユダヤ教のラビ、イスラームのシャイフ、キリスト教の司教が、エルサレムという三つの宗教にとっての聖地において平和を築き上げようと約束したアレクサンドリア宣言(2002 年)の際、ユナン師はそれに署名した 14 人の宗教指導者の一人であった。師のエキュメニカル活動は宗教間・教派間の共通点に重きを置くもので、平和の実現に不可欠である。

ユナン師はまた講演者として有名であり、地元や海外を巡って、パレスチナ人キリスト教徒の視点から、キリスト教の教えと教理に基づいて公正な平和についての講演や発言を行っている。師には『平和への証言：エルサレムそして世界の中で』や『私たちの共有された証言：正義と和解への声』など、平和に関する数多くの著述がある。

対話をとおしてキリスト教・イスラーム・ユダヤ教を信仰するイスラエル人・パレスチナ人を和解させる活動の中に、価値ある教訓を分かち合うことのできる師自身の才能がゆきわたっている。ユナン師は対話の持つ癒しの力を強く信じ、1991年以來、宗教を異にする人々が穏やかに出会える場づくりに尽力している。憎しみ合うことを教え込まれてきた人々が、お互いの違いを理解し合うことを目的とした内省や対話をとおして、和合することのできる大切な場である。宗教の違いを超えた癒しと対話を促すユナン師の精力的な働きを、庭野平和賞財団は賞賛する。

ユナン師は数十年にわたって卓越した信仰の指導者であり、これまでもそして今も、首尾一貫して優しさと思いやりの心で周りを明るく照らし続けている。相手に自分の心を打ち明けることを必要とする対話の働きによって、相違の峡谷に橋を架け、ムスリムとユダヤ教徒とキリスト教徒の隔たりを着実に小さくすることが可能であることを、師は示してきた。庭野平和賞財団は師のたゆみない貢献と功績を讃え、第34回庭野平和賞をムニブ・A・ユナン師に贈呈する。

庭野平和賞委員会 委員長 ノムファンド・ワラザ